



明るく たくましい 明世の子

# ビカリア

令和5年度  
瑞浪市立明世小学校  
NO. 5  
R5. 7. 20

## コミュニティ・スクールと温故知新

長い坂を上って、最後のカーブを曲がると、この石碑が見えます。「温故知新 創立100周年記念 2006年11月5日」と刻まれています。「温故知新」とは「昔の物事を研究し吟味して、そこから新しい知識や見解を得ること」〔広辞苑〕（故きをたずねて、新しきを知る）または（故きを温めて、新しきを知る）と読みます。

昨年度から、コミュニティ・スクール（以下コミスク）として、目指す子供像の実現に向けて、地域の方々と共に活動してきました。今年度も、学校の教育目標「明るく たくましい 明世の子」と、コミスクとしてめざす子供像「あかるいあいさつ きらきらえがお よさがいっぱい あきよの子」の実現に向けて、協働しています。この活動が、「温故知新」とつながると考えます。そのいくつかを紹介します。



3年生は、山野内地区にある田中泥薬師の見学に行きました。保存会の方による紙芝居を見て、地域の方の泥薬師を大切にしてきた思いを知ることができました。

6年生は、戸狩地区にある荒神塚古墳の見学に行き、県内最大級の円墳であることを知りました。この地域に、こうした文化財があることに誇りを感じました。

児童玄関には、ホタルの幼虫がいます。ホタルが成長していく過程を観察できるように、地域の方が水槽を設置してくださいました。これは、5年生の総合的な学習の時間「明世の環境」のひとつです。狭間川の生き物観察を行う際は、地域の方が河岸の草刈りやタモ網の準備をしてくださいました。地域の方の、明世の環境を守りたいという思いを知りました。

このほかにも、見守りや花壇の補修・花植え、登校坂の草刈りなど、環境美化活動もしていただいています。子供たちも守ってくださっていることを感じ取り、挨拶に加えて「ありがとうございます」と伝える子も多くいます。

こうしてみると、地域の方が、地域の子供たちのために「主体的に活動」（学校を支援するというレベルを超えて）してくださっていることがわかります。地域の方は、〇〇地区の子とは意識せず、明世小学校の子の全体を見てくださっています。

さて、私は、もっと「故きを温める必要がある」と考えます。月吉にも、和合にも歴史があります。もちろん、松ヶ瀬も戸狩も山野内も。子供たちに、自分の地域のよさを伝えたい。誇りをもたせたい。瑞浪市にも、岐阜県にも誇りを持ち、日本に誇りを持ち、いずれは世の中をよりよくしていこうとする大人になってほしい。そのために今、自分の住む地域について学ぶことが大切だと考えます。

各地区のよさを学ぶことを通して、学び方を身に付ける。誇りをもつ。それぞれの地域のよさを取り入れて、新しいものをつくりだす。「温故知新」「たくましい明世の子」にはこうした願いがあると考えます。

各地区の歴史や文化について、夏休みに子供と調べてみるのはいかがでしょうか。また、学校では、教えてくださる方を求めています。